

グーテンベルク時代の

ver5.x
対応

WordPress ノート



テーマの作り方（入門編）

サポートPDF

2021年8月5日発行

本 PDF では、最新の WordPress 5.x およびグーテンベルクへの対応方法をまとめています。

<https://github.com/ebisucom/wordpress-note>

エビスコムの著者NOTEやTwitterでもWordPressに関する情報を出していますので、参考にしてください。

著者NOTE: <https://ebisu.com/notecat/wordpress/>

Twitter: <https://twitter.com/ebisucom>



エビスコム 編著

CONTENTS

書籍の対応箇所	本 PDF での解説ページ
P.7.....	3
P.49	3
P.51	3
P.67	4
P.77	4
P.146.....	5
P.147	5
P.193.....	5
P.194.....	6
P.201	6
P.202.....	7
P.211 & P.213	7

P.7

WordPress5.8 では IE 対応が終了となり、CSS をはじめとして根本的な見直しが進んでいます。

本書の場合、P.7 に掲載したように IE はサポート対象外としていますので、作成するテーマへの影響はありません。



WordPress 5.8 Tatum | WordPress.org 日本語
<https://ja.wordpress.org/2021/07/21/tatum/>

P.49

ボタンプロックの角丸半径の設定項目はなくなっています。



P.51

再利用ブロックの「通常のブロックへ変換」はメニューからボタンに変わっています。

「通常のブロックへ変換」ボタン。

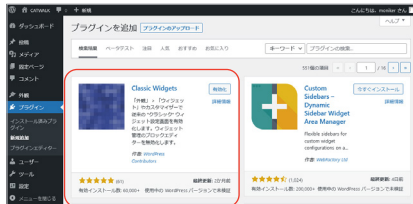


P.67

WordPress 5.8 からは、「ウィジェット」がブロックベースのウィジェットエディタになっており、メニューの作成手順が大きく変わります。さらに、新しい機能なため、今後のリリースで仕様が変わる可能性もあります。

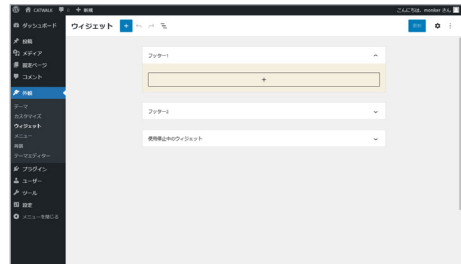
書籍と同じ手順でメニューを作成するためには、ブロックベースのウィジェットエディタを無効化し、従来型のウィジェット（クラシックウィジェット）を使用して作業をすすめてください。

P.67 の段階では「Classic Widgets」プラグインを使って無効化します。P.77 でオリジナルのテーマを作成する際には、functions.php に設定を追加して無効化します。



「Classic Widgets」プラグイン

<https://ja.wordpress.org/plugins/classic-widgets/>



ブロックベースのウィジェットエディタ。



従来型のウィジェット（クラシックウィジェット）。

P.77

「Classic Widgets」プラグインの有無に関わらず、作成するテーマではブロックベースのウィジェットエディタを無効化して作業をすすめます。そのため、基本設定の1つとして functions.php に右のコードを追加します。

```
// 基本設定
function mytheme_setup() {

    // ブロックベースのウィジェットエディタを無効化
    remove_theme_support( 'widgets-block-editor' );

    // ページのタイトルを出力
    add_theme_support( 'title-tag' );

    ...
}
```

functions.php

P.146

エディタのテキストの表示には P.146 のように明朝系のフォントが使用されていましたが、ゴシック系のフォントが使用されるようになりました。

そのため、エディタ用の CSS (editor-style.css) に右の設定を記述する必要はなくなっています（記述したままでも問題はありません）。

```
body {
    font-family: sans-serif;
}
```

editor-style.css

P.147

グーテンベルクの CSS により、標準で設定されるエディタの記事の最大幅が 580 ピクセルから 840 ピクセルに変わっています。テーマの設定には影響しません。



P.193

WordPress 5.8 では theme.min.css が <style> を使ってインラインで読み込まれるようになっています。

theme.min.cssの設定。

```
...
<link rel="stylesheet" id="wp-block-library-css" href="http://www.www/wp-includes/css/dist/block-library/style.min.css?ver=5.8" type="text/css" media="all">
<style id="wp-block-library-theme-inline-css" type="text/css"> ... </style>
...
```

フロントに出力されたコード。

P.194

YouTube を埋め込んだ場合、標準のフロントでの表示が右ようになります。小さい画面幅では上下に黒帯が入り、横幅は 500 ピクセルより大きくなりません。



P.195 の設定を行うと、書籍と同じように小さい画面幅でも上下に黒帯が入らなくなります。横幅は 500 ピクセルより大きくなり、記事に合わせたサイズで表示されます。



P.201

「カテゴリー」ブロックなどのウィジェットカテゴリーのブロックは、「中央揃え」の配置にしてもエディタでの表示が変化しなくなりました。ただし、これまでとおなじように「aligncenter」クラスが付与されます。そのため、P.201 の CSS を適用すると、フロントでの表示は中央揃えになります。

エディタでの表示も中央揃えにする必要がある場合、次の CSS を editor-style.css に追加します。

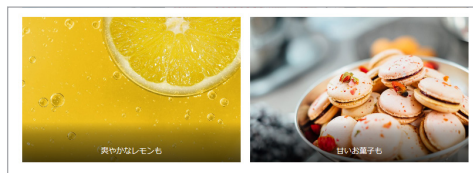
```
[data-align="center"] .wp-block-categories,
[data-align="center"] .wp-block-latest-posts,
[data-align="center"] .wp-block-archives,
[data-align="center"] .wp-block-tag-cloud,
[data-align="center"] .wp-block-latest-comments,
[data-align="center"] .wp-block-rss {
    text-align: center;
}
```

editor-style.css

P.202

P.202 ではギャラリーのキャプションがオーバーフローし、表示が崩れていました。しかし、グーテンベルクの CSS でキャプションに対して「box-sizing: border-box」が適用されるようになったため、P.204 の設定を追加しなくても崩れなくなっています。

なお、エディタではグーテンベルクの CSS で「box-sizing: border-box」がすべての要素に適用されていますので、P.204 の設定は追加しておくことをおすすめします。



```
article {
    box-sizing: border-box;
}

article *,
article *::before,
article *::after {
    box-sizing: inherit;
}
```

P.204の設定。

P.211 & P.213

YouTube などの埋め込みブロックは「core-embed/～」というブロック名で指定できなくなっています。「core/embed」と指定し、すべての埋め込みブロックを有効化することは可能です。

```
// 使用可能なブロック
function mytheme_block() {

    return array(
        'core/paragraph', // 段落
        'core/image', // 画像
        'core/embed', // 埋め込み
    );
}

add_filter( 'allowed_block_types', 'mytheme_block' );
```

functions.php

グーテンベルク時代の WordPress ノート
テーマの作り方（入門編）

サポート PDF

著者 エビスコム
<https://ebisu.com/>

発行 エビスコム電子書籍出版部 [EP EBISUCOM]
<https://ep.ebisu.com/>